図書室だより

関ケ原の戦いについては数多くの歴史家が長年その史実・真相に迫るべく研究を重ね、既にして出尽くし感があるのは否めません。また、余多の作家も幾多の切り口から想像力を駆使して挑み、数多くの名作が残されてきました。そして、いまや関ケ原に関しては定説らしきものが出来上がり、毎年のように出される「関ケ原本」にはマンネリ感さえ漂っていました。そんな中、**羽鳥好之**なる新人によって「新しい関ケ原」が描かれたのです。**「尚、赫々たれ・立花宗茂残照」**、一読の価値ある一冊と言えます。特に助演の毛利秀元に語らせた、南宮山に陣取った毛利一門の戦不参加の真相（歴史にタラレバはないが、もし毛利一門が動いていれば徳川の天下はなかったと言われている）はいかにもという説得力にみち、かつ現代の「時代の流れについていけないがために後れを取る者たち」へのメッセージ性も合わせ持つ含蓄ある展開になっています。日本史上最大のミステリー「関ケ原」の価値は、まだまだ汲みつくされてはいないようですね。

さて続いては**高瀬隼子**の**「おいしいごはんが食べられますように」**です。2022年上半期の芥川賞受賞作です。書評を書かなくてはいけないので、2度読みしましたが、やっぱりというか予想通り、よく分かりませんでした。芥川賞受賞作には苦手意識があって困ります。なぜこのタイトルが選ばれたのか、なぜこういう救いのない職場を描いたのか、なぜ主人公はじめ登場人物全てがこれほどまでに共感の得られない描かれ方になったのか、なぜ読後感を考慮しないストーリーになったのか、なぜなぜなぜが折り重なって途方にくれる。心がざわざわして、なんだか気分も良くない。こういう感想が出るのを狙ったとしたら、「小説をもてあそぶんじゃないよ」と思わず声に出してしまいそうだし「それでどうしたの…」とひらきなおってもしまいそう。そして何よりも、なぜこの作品が芥川賞に選ばれてしまったのか。そういう意味で、私にとっては久々のミステリー。太地町の皆さん、この本を読んで感想をお聞かせください。

最後は、こんな先生に学んでみたかった、小学校教師**渡辺道治**先生の**「心を育てる語り」**です。いまや渡辺先生の名前は全国区、日本中の先生から講演を依頼されるカリスマ先生、いまだ39歳。でもこの本は先生ばかりではなく、お子様を持つお父さんやお母さんにこそ読んで頂きたいなあ。「うちの子は」物覚えが悪いし要領も悪いとため息つく前に、「うちの子は」何でもすらすらできると安心し自慢する前に、「うちの子は」これ以上は無理と心理的制限を設けてしまう前に、「うちの子」に夫婦喧嘩や暗い表情を見せる前に、「うちの子」にワンパターンでほめるのを良しとする前に、「うちの子」の前で人のうわさ話や悪口を言う前に、「うちの子」はゲームばっかりと嘆く前に。「うちの子は」「うちの子は」「うちの子は」と悩んだときに、きっと解決のヒントが見つかると思いますよ。さて、子育てはとっくの昔に卒業したあなたや私は、この本をどういう風に読みましょうか。それは読んでのお楽しみということで。

ま・め・な・か・に 90

下西 良美さんの家族
（旧姓 東）

♥住所
long beachi
calif. U.S.A.

♥職業（勤務先）
主婦

♥家族
息子（三人）

♥生きがい又は趣味
家族　友達での
食事会

♥太地在住の親族
清水みちえ
田中　里美
脊古　俊伸

♥幼友達〔1958年太地小学校卒業〕
筋師（堀端）啓恵さん、佐々木（佐々木）たかこさん、
麻生（山本）さなえさん、
桑野（森本）博子さん（サンフランシスコ在住）

♥あとひと言ふた言
渡米して64年が経ちましたが来た当時は思い出深い太地が懐かしくこちらの生活に慣れるまでに時間がかかりました。子供達家族と一度太地を訪れるのが私の夢です。

鯨波歌壇

一年過ぎ止める国も人もなし叡知を集め戦いなきを　桝田　歌民

笹の葉のさゆらぎは地に影落し桜花舞うなり幻の谷　吉田　敬

引き幕の外にもありや花の道めげずに生きろと背中押す声　畑下　雅昭

妻逝きて遺影の笑みに生かされし二十一年今八十歳なり　水平線

「ほんまもん」の熊野訛りに茶の間沸き見知らぬ役者に親しみ覚ゆ　漁野加鶴宣

囀りを空に残して揚雲雀鯨の狼煙場跡へと落つ　奥　千英子

昭和まで日本アシカの棲みしとふ浦の山よりアシカ島見る　向井ゆみ子

灯の漏れる入江の奥の小さき船荒海さけて遅き夕餉か　滝本　卓宏

波止ちかきベンチに老いの集い居て話していたり春陽浴びつつ　世古　忠子

「来春も逢えたらいいね」独り言そよぐ桜花にできぬ約束　浜木綿

春の陽に油断するうち夕まぐれ葉桜ゆらす風に目覚める　東　ひとみ

いさな俳壇

山桜咲いてこそ知る在り所　滝本　卓宏

海光の強き岬や野水仙　奥　千英子

川風の振り撒く香り梅林　泰地みちこ

太陽の位置が時計よ磯遊び　上田ヒサミ

この陽気咲いた散ったと花談義　瀬藤　和世